

資料2 岡地区の津波対策（短期・中期・長期）

課題		担当	短期的対策（2～3年）	中期的対策（10年以内）	長期的対策	備考	
ハード対策	津波防護施設（護岸等）	県				・レベル1津波による浸水被害を防ぐための護岸整備（かさ上げ）および北川・伊東大川河口部の水門整備は当面実施しない。	
	避難路	県	・点検実施(H29.2) (S-1-12)			・今後も河川パトロール等で定期的に点検を実施（すべての県管理河川）	
ソフト対策	避難路（標識）	伊東市	・津波避難方向の路面表示等の充実 (S-2-1) ・蓄光式看板等の検討・研究 (S-2-2)			・津波避難計画に基づき、より効率的な避難ができるよう、平成27年度に一部実施済み。	
	防災倉庫	伊東市	・自主防災会に必要な防災資機材を交付				
	避難場所	・避難ビルへ逃げる 星野リゾート ・お年寄りには避難ビルを使う	伊東市	・津波避難協力ビルの指定数増加 (S-4-1)			・浸水区域外への避難が原則 要配慮者や避難開始が遅れた場合は津波避難協力ビルへ避難 ・総合防災ガイドブックで津波浸水区域を確認し、あらかじめ避難先を決めておく。
		・避難ビルのドアが開くか	伊東市	・「地震開錠キーボックス」の設置（建物所有者の理解が前提） (S-4-2)			
	情報連絡（事前準備）	・避難計画	伊東市	・津波避難計画作成			
		・津波浸水区域・津波避難ビル等の周知	伊東市	・総合防災ガイドブック（ハザードマップ）全戸配布			・平成28年3月配布済み ・随時更新
		・災害弱者対策	伊東市	・避難行動要支援者避難支援計画（個別計画）の作成			・市・自主防・民生委員等
		・自主防災会ごとの津波避難行動計画作成	民間	・自主防災会ごとの津波避難行動計画作成			・作成支援（伊東市）
	情報連絡（発災後）	・情報伝達手段の整備	伊東市	・Jアラート(全国瞬時警報システム)の活用 ・沿岸部等の同報無線のデジタル化 ・同報無線とその他の情報伝達手段（メールマガジン、ケーブルテレビ、FMラジオ、エリアメール）の自動連動化			・整備済み（伊東市）
		・安否確認手段の整備	民間	・「災害用伝言ダイヤル171」の活用 ・家族間・近所であらかじめ取り決め			・活用方法等の周知（伊東市）